



顕彰への招待

社会起業家をめざす多摩大生に

## 愛と勇気とロマンを持って

社会貢献に注目が集まっている。特に「企業の社会貢献」という言葉は、最近よく新聞などで見かける。大学も同じことだ。社会に貢献するのは、地域に大学が存在するうえで基本理念となるものだろう。私のゼミのモットーの一つは「社会起業家」をめざす、というものである。ベンチャー起業するのも、大企業に就職するのも社会企業家をめざすことには変わりはない。社会に役立つ人間になろう、社会を幸せにする組織を創ろう、これがシンプルであるが骨太のゼミの目標だ。例えば、多摩大学のすぐ近くに知的障害を持った人々の経営する「どんぐりパン」というパン工場があるが、ある福祉事業団が主催する事業支援コンペのプレゼンのお手伝いをした。見事に2位に入賞して、新しく立ち上げる事業のファンドを得ることができた。ささやかな社会貢献であるが、教室では得られない貴重な体験をした。ゼミでは毎年、地方に出掛けていって夏合宿をするが、必ずその地域や企業と協働して、企業や地域が抱えている問題解決の提案をテーマにしている。今年は埼玉県の江南町という町で、観光まちづくりの発表をした。町の方々が、ゼミ生の提案を受けて、大いに勇気付けられた、と喜んでくれた。大学内にコミュニティビジネス研究センターという組織があるが、私や大川新人先生が中心になって、地域の市民起業家を支える役割をしている。多摩大学があるから社会が幸せになった、そんな大学が私の理想とするものだ。

